〈 R8．1月　最終〉

令和７年度　学 校 評 価 自 己 評 価 表

三次市立布野小学校

【評価の観点】　：　① 目標，指標，計画等の設定の適切さ　② 達成状況評価（自己評価）の適切さ　③目標達成に向けた取組の適切さ　④ 評価結果の分析の適切さ　⑤ 次年度へ向けての改善方策の適切さ
【評価の基準】　：　４‥‥達成度 100%以上　３‥‥達成度 80%以上～100%未満　２‥‥達成度 60%以上～80%未満　１‥‥達成度 60%未満

	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	自己評価					
					時期	目標値(%)	到達値(%)	達成度(%)	評定	説明
確かな学力	対話を通して、学力のさらなる向上を図る。	学力の定着及びさらなる向上を図る。	・布野中学校と連携を図り、９年後を見据えた一貫性のある授業づくりを行う。生活科・総合的な学習の時間に限らず全教科で探究的な単元づくりを行う。 ・各教科の見方・考え方を働かせる授業を展開する。またねらいに迫るようなファシリテートを行い、児童の発言の質を向上させる。 ・自己や他者の思考を整理したり拡散したりして、教科のねらいに迫るために思考ツールを活用する。	①国語科・算数科の単元末テストにおける到達度をそれぞれ 85%以上にする。 ②3～6年生の三次市学力到達度検査の「思考・判断・表現」内容において、すべての教科（16 教科）のうち市平均を上回る教科の割合を 80%以上（13 教科以上）にする。	9月	①85	国語 87.7 算数 84.7	101.4	4	○国語科はどの学年も概ね目標値に近い結果となっている。算数科は目標値を達成しておらず、算数科の学習内容の未定着が大きな課題である。４月から「算数科」を中心に授業研究を進め、数学的な見方・考え方を働かせながら課題の解決方法を見付け、生きて働く知識・技能の習得を目指している。そのために、児童に問いをもたせる仕掛けを指導者が行う等している。単元で身に付ける力を確実に付けられるように、今後も授業改善を図っていく。
					12 月	①85 ②80	①国語 92.0 算数 84.3 ② 81.2	①103 ②101	4	○国語科は到達値を９月と比較すると約５%上がり、目標値を達成している。読解ドリルに週に一度取り組み、読み取りのスキルを身に付けたこと、教材文に対して児童が自分の考えを伝え合える学級づくりができていることが成果につながったと考える。算数科は到達値を９月と比較すると横ばいであり、目標値にわずかに達していない。全学年で「読み上げ計算」に取り組んだことで、基礎的な計算技能は身に付いている。しかし、算数に対して苦手意識をもつ児童を減らし、計算の仕組みや計算の応用などの力をつけていきたい。また、三次市学力到達度検査の結果による各教科の課題については今年度中に学び直しを行う。
		話し合いの充実を図る。	・能動的な聴き手を育成する。「なぜ？」「でも…」「だって…」などたずねたり深めたりする技法を使えるように、日ごろの授業で指導・評価していく。 ・低中高に分かれて「トーキングタイム」を月に１度行い、グループで話し合う場を設ける。その際、対話の技を指導したり自分たちの話し合いを振り返らせたりする。	①国語科「話すこと・聞くこと」の単元末テストにおける到達度をそれぞれ85%以上にする。 ②3～6年生の三次市学力到達度検査の国語「話すこと・聞くこと」の内容において、市平均を上回る児童の割合を 80%以上にする。	9月	①85	87.9	103.4	4	○月に１度「トーキングタイム」を継続的に行った。お題に沿ってペアやグループで話し合いを行うことで、授業においても話し合いが充実してきている。また、話し合いの技を習得できるように、指導者が意識的に評価している。「聞くこと」が課題であるため、２学期以降「聞くこと」に特化した取組も発達段階に応じて行っている。
					12 月	①85 ②80	① 88.9 ② 57.5	①104 ②71	3	○①については目標値を達成している。毎月１回「トーキングタイム」を低高学年に分かれて行い、話し合うだけではなく「聞くこと」にも力を入れて取り組んだ。低学年は聞きながらメモすることを学習し、高学年は聞いたことを要約することを学習したことが成果につながったと考える。②については、４学年とも目標値を達成できなかった。正しく聞き取ることと、話し手の工夫を見つける力はあるものの、聞いたことから、話し手として意見を述べることに課題があった。来年度、「トーキングタイム」では、聞いて分かったことから自分の意見を述べるところまで発展させていきたい。
豊かな心	目標に向かって努力する児童を育成する。	学校行事や学期初めの目標に向かって努力する児童を育てる。	・学期初めに決めた目標達成に向けて、具体的な手立てを掲げ努力を続けさせる。月末に１回振り返りを行う。 ・運動会、水泳学習、布野小フェスタ、ふるさとまつり、マラソン大会、なわとび大会における目標をジャンプアップシートを活用しながら決め、達成のため努力を続け、振り返りを行う。 ・キャリアログを活用して、意識を高めさせる。	・学期初めの目標、学校行事の目標達成に向けて「とてもがんばっている」と振り返る児童の割合を 75%以上にする。	9月	75	57	76	2	○１学期の目標を教室後方に掲示し、常に意識できるようにした。また、学校行事（運動会）の目標もジャンプアップシートに記入し、取組後、振り返りを書きこんだ。 ○２学期も同様に個人目標の掲示やジャンプアップシートへの記入を行っているが、日常的に個のがんばりや集団としてのがんばりを細かに評価し、価値づけていく。
					12 月	75	71	95	3	○２学期も同様に個人目標の掲示やジャンプアップシートへの記入を行うとともに、日常的にがんばりや集団としてのがんばりを細かに評価し、がんばりを価値づけてきた。 ○目標値の７５%は達成できなかったものの、１学期よりは「とてもがんばっている」と回答児童が増加している。 ○「とても・・・」と回答しなかった児童も「まあまあがんばっている」と全員が肯定的に回答しており、児童は目標に向けてがんばっているといえる。自信をつけていくことで自信をもって「とてもがんばっている」と答えられるよう取組を行う。
健やかな体	児童の健康・安全を守るとともに、体力・運動能力の向上を図る。	健康･安全教育の充実を図る。	・保健指導や学級指導を通して、規則正しい生活習慣を身に付けさせる。 ・特に「起床時刻・就寝時刻・家庭学習時間・メディア時間」の目標が守れるよう、スタディーウィーク週間を設け、年間２回行う。 ・スタディーウィーク週間は、生活チェックカードを毎日提出し、声かけを行う。	・自分で決めた「メディア時間」を守れる児童を 80%以上にする。	9月	80	64	80	3	○今回は「メディア時間」を１日１時間以内とするよう全校で統一して取組を進めることとした。目標達成した学年は、１学年に留まり、特に高学年の結果は低かった。２学期は、長時間メディアに触れることによる心身の影響等について事前学習を行い、守れる児童の割合を増やしていきたい。保護者にも取組の意義等を伝えるとともに、家庭で声かけする等協力を要請していく。
					12 月	80	69	86	3	○２学期のスタディーウイークを前に、長時間メディアに触れることによる心身の影響等について事前学習を行った。保護者にも取組の意義等を伝えることで、家庭での声かけ等の協力があったものと思われる。 その結果、目標の 80 %以上は達成できなかったものの、１学期よりは改善できた児童が増加した。 ○次年度にむけて、平日・土日のメディア時間を自己決定させて取り組めるように検討していく。
		体力･運動能力の向上を図る。	・体育的行事に向けての練習を通して、体力の向上に努める。 ・体育委員会主催の体を使ったレクタイムを行い、楽しみながら体力・運動能力の向上に努める。 ・新体力テストに向けて、自分の課題を理解し、課題解決に向けて努力を続けさせる。	・体力テストで AB 値を 75%以上にする。	9月	75	63	84	3	○全国平均値と比べて全学年とも記録が下回っている「立ち幅跳び（跳躍力）」について、体育科の学習を中心に重点的に取組を行い、12 月中に再テストを行う。
					12 月	75	63	84	3	○体育科の学習を中心に重点的に取組を行い、「立ち幅跳び」の再テストを行ったところ、１学期の自分の記録を全校 48 人中 42 人の児童が伸ばすことできた。 ○再テストの記録をもとに再計算したが、立ち幅跳びの改善のみでは児童個々の AB 判定に変化はなかった。
信頼される学校	地域・保護者から信頼される学校をつくる。	保護者の学校の取組に対する満足度の向上を図る。	・地域実態や学校規模を生かし、特色ある教育内容を展開し、保護者や地域のニーズに応える。 ・年間２回のアンケートにより、児童・保護者の学校の取組に対する満足度や意見を把握し、教育活動の工夫改善に生かす。	①「これからの社会に役立つ力が育っている」保護者の肯定的回を 95%以上にする。 ②「保護者・地域と協働して子どもの健やかな育成に取り組んでいる」保護者の肯定的回答を 95%以上にする。	9月	①95 ②95	①98 ②100	①103 ②105	4	○肯定的な回答が多かった。未回答のご家庭に回答をお願いする声かけを行っていく。また肯定的な回答がさらに伸びるよう教育活動の充実を継続する。
					12 月	①95 ①95	①100 ② 95	①105 ②100	4	○自由記述覧にコメントをいただいている。「子育てへの不安」「小規模校のデメリット」「特色ある学校への期待」「不登校対策について」のコメントがあった。こうしたコメントへの回答を丁寧に行っていきさらに信頼を高める。